

実務的科目一覧
色付けされた科目は、実務的教員による実務的教育を行う科目となる。
スポーツ柔整科

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区分	単位	時間	1 年次		2 年次		3 年次		
							前	後	前	後	前	後	
基礎分野	科学的思考の 基盤人間と生活	必修	コミュニケーション理論	演習	2	30	30						
		必修	情報リテラシー	演習	2	30		30					
		必修	生物学	講義	4	30	30						
		必修	栄養学	講義	2	30	30						
		必修	スポーツ栄養学	講義	2	30		30					
		必修	医用英語	講義	2	30	30						
専門基礎分野	人体の構造 と機能	必修	解剖学Ⅰ	講義	2	60	30	30					
		必修	解剖学Ⅱ（運動器：骨格系, 筋系）	講義	2	60	30	30					
		必修	解剖学Ⅲ	講義	2	60			30	30			
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30					
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30			
		必修	解剖生理学	講義	2	60					30	30	
		必修	運動学	講義	2	60			30	30			
		必修	高齢者の生理学的特徴・変化	講義	1	30					30		
	疾病と傷害	必修	競技者の生理学的特徴・変化	講義	1	30						30	
		必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	60			30	30			
		必修	一般臨床医学Ⅱ（高齢者）	講義	2	30					30		
		必修	病理学	講義	2	60			30	30			
		必修	外科学概論	講義	2	30				30			
		必修	整形外科科学	講義	2	60			30	30			
	柔道整復術の適応	必修	リハビリテーション医学Ⅰ	講義	2	30			30				
		必修	リハビリテーション医学Ⅱ（高齢者の運動機能維持・回復）	講義	1	30				30			
		必修	柔道整復術の適応	講義	2	30					30		
		保健医療福祉と 柔道整復の理念	必修	関係法規	講義	1	30			30			
			必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	60			30	30		
			必修	職業倫理	講義	1	30						30
	必修		柔道Ⅰ	実技	1	30		30					
	必修		柔道Ⅱ	実技	1	30			30				
	必修		柔道Ⅲ	実技	1	30				30			
	社会保障制度	必修	柔道Ⅳ	実技	1	30					30		
		必修	社会保障制度	講義	1	30		30					
専門分野	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	2	60	30	30					
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	60	30	30					
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	60	30	30					
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	2	60	30	30					
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ（外傷保存療法の経過及び治癒の判定）	講義	2	60			30	30			
	臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	60	30	30					
		必修	臨床柔道整復学Ⅱ	講義	2	60			30	30			
		必修	臨床柔道整復学Ⅲ	講義	2	60			30	30			
		必修	臨床柔道整復学Ⅳ	講義	2	60					30	30	
		必修	臨床柔道整復学Ⅴ	講義	2	60					30	30	
		必修	臨床柔道整復学Ⅵ（物理療法機器の取扱い）	講義	2	60					30	30	
		必修	臨床柔道整復学Ⅶ（柔道整復師の臨床的判定・医用画像）	講義	2	60					30	30	
		必修	臨床柔道整復学Ⅷ	講義	2	60					30	30	
		必修	臨床柔道整復学Ⅸ	講義	2	60					30	30	
	柔道整復実技	必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	60	30	30					
		必修	柔道整復実技Ⅱ	実技	2	60	30	30					
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実技	2	60	30	30					
		必修	柔道整復実技Ⅳ（高齢者の外傷予防）	実技	1	30			30				
		必修	柔道整復実技Ⅴ（競技者の外傷予防）	実技	1	30				30			
		必修	柔道整復実技Ⅵ	実技	2	60			30	30			
		必修	柔道整復実技Ⅶ	実技	2	60			30	30			
		必修	柔道整復実技Ⅷ	実技	2	60					30	30	
		必修	柔道整復実技Ⅸ	実技	2	60					30	30	
		必修	柔道整復実技Ⅹ	実技	2	60					30	30	
		必修	柔道整復実技Ⅺ	実技	2	60					30	30	
臨床実習	臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45		45					
		必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45				
		必修	臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45			
		必修	臨床実習Ⅳ	実習	1	45					45		
					108	2910	450	525	525	525	495	390	
実務的授業合計					55	1710	240	315	255	225	345	330	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 関係法規 ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 2年

1 授業の内容

柔道整復師の業務の基盤となる法規を学ぶ。併せて、関連する医療職種の身分法規も学ぶ。担当講師の実務経験を取り入れた、臨床面でのコンプライアンス遵守につながる内容を取り入れる。

2 到達目標

自己の職業として実践する業務を遂行する上で、法規を遵守することが重要であることを認識する。

3 授業の方法

教科書・配布資料を利用した講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書を復習し、不明な点は質問し、確実に理解するように努めてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「関係法規」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

真のプロフェッショナルとして職を遂行できるように、日々の学習を怠らないようにしてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術管理者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 関係法規 ）

回数	授業内容
1	序論：法の意義・体系・柔道整復に関する法規・患者の権利
2	柔道整復師と患者の権利、医療事故・医療過誤とリスクマネジメント
3	柔道整復師法 第1章：総則
4	柔道整復師法 第2章：免許、第3章：国家試験
5	柔道整復師法 第4章：業務
6	柔道整復師法 第5章：施術所
7	柔道整復師法 第6章：雑則
8	柔道整復師法 第7章：罰則
9	指定登録機関及び指定試験機関
10	医療従事者の資格法
11	医療法
12	社会福祉関係法規
13	社会保険関係法規（1）
14	社会保険関係法規（2）、その他の関係法規（個人情報保護法）
15	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 職業倫理 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の概要

柔道整復師としての倫理，マナー，コンプライアンスの基本を学習する。

2 到達目標

- ・ 柔道整復師に求められる倫理，柔道整復師・施術所に対する信頼，柔道整復師としての社会貢献・社会奉仕について理解する。
- ・ 医療関係者として，また社会人として求められる倫理，マナーについて理解する。
- ・ 患者に接する際の心構え，患者の自己決定権の尊重，プライバシーの保護とインフォームドコンセントについて理解する。
- ・ 柔道整復師として，法令等を遵守し，併せて保険請求のルール，道徳や慣習を理解する。

3 授業の方法

教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布をおこなう。

4 成績評価方法

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

予習は教科書読み、解らない語句や読み方などを事前に調べておいてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」

医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

近い将来，柔道整復師として仕事に就くうえで重要な基本理念を学習する授業です。
不明な点があるときは必ず質問をして，少しずつ理解を深めるように努力しましょう。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 職業倫理 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション，授業内容の説明
2	柔道整復師としての倫理 ― 柔道整復師に求められる倫理とは
3	柔道整復師としての倫理 ― 柔道整復師が果たすべき役割
4	柔道整復師・施術所に対する信頼
5	柔道整復師としての社会貢献，社会奉仕
6	医療関係者・社会人としての倫理・マナー
7	医療関係者として求められる倫理
8	医療関係者としてのマナー
9	社会人としてのマナー
10	患者との接し方 ― 患者に接する際の心構え
11	患者の自己決定権の尊重
12	プライバシーの保護とインフォームドコンセント，守秘義務
13	コンプライアンス（法令遵守） ― 柔道整復師が守る法令
14	保険請求のルールへの遵守，道徳・慣習
15	定期試験解説、まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会保障制度 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

社会保障制度の概要、保険診療の種類や基準について学び、担当教員の実務経験を基にした指導を行い、実践力を備えた人材へと成長を促す。

2 到達目標

社会保障制度、介護保険の内容を把握する。

3 授業の方法

教科書・配布資料を使用した講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠状況、積極性も含み評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布している資料に関する復習をし、自己の弱点を克服してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」

医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

資格取得後も必要な知識です。一緒に頑張りましょう。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 社会保障制度 ）

回数	授業内容
1	社会保障とは ①3つの機能 ②社会と今後の社会保障
2	社会保障制度とは ①公的年金 ②仕組み ③介護保険の意義 ④社会公的公衆の意義
3	医療保険制度とは ①医療保険の目的意義 ②保険診療の概要
4	医療保険制度とは ③医療保険制度の現状と課題
5	医療保険制度とは ④診療報酬制度
6	療養費制度の概要 ①療養費とは
7	療養費制度の概要 ②柔道整復療養費
8	療養費制度の概要 ③柔道整復療養費の推移
9	療養費制度の概要 ④療養費の概要
10	療養費制度の概要 ①-1 療養費の算定 a.療養費料金 b.初検料 c.相談料
11	療養費制度の概要 ①-2 療養費の算定 d.時間外 e.往療料 f.再検料
12	療養費制度の概要 ①-3 療養費の算定 g.施術料 h.一部負担金
13	療養費請求のケーススタディー
14	総復習
15	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

柔道整復術の沿革、歴史を医学史と並行して学び、柔道整復術の施術方法を知るために、基礎医学である解剖学及び生理学の学習をしながら、骨の機能と構造を理解し、骨折についての基礎を学習する。講師の実務経験をもとに、臨床例も紹介する。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症狀などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につける必要があります。理解を深めるためにも授業に集中し、不明な点は後回しせずにその都度質問をするように心掛けてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 柔道整復術および柔道整復師の沿革 P2～P6
2	業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領
3	総論 ― 人体に加わる力、損傷時に加わる力①
4	損傷時に加わる力② ― 外傷のメカニズム
5	骨の形態と機能①
6	骨の形態と機能②
7	骨損傷の概説：骨損傷に関わる力，骨損傷の分類①：性状による分類
8	骨損傷の分類②：程度による分類，骨折線の方法による分類
9	骨損傷の分類③：外創との交通の有無による分類，外力の働いた部位による分類
10	骨損傷の分類④：外力の働き方による分類，部位による分類，経過による分類
11	骨折の症状：局所症状，全身症状①
12	骨折の症状：局所症状，全身症状②
13	骨折の症状：局所症状，全身症状③
14	骨折の症状 まとめ復習
15	試験解説
16	骨折の合併症：併発症①
17	骨折の合併症：併発症②
18	骨折の合併症：続発症①
19	骨折の合併症：続発症②
20	骨折の合併症：後遺症①
21	骨折の合併症：後遺症②
22	小児骨折の特徴①
25	小児骨折の特徴②
26	高齢者骨折の特徴
27	骨折の癒合日数，骨折の治癒経過
28	骨折総論まとめ復習
29	まとめ復習
30	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の概要

関節損傷および軟部組織損傷各論を学ぶうえの基礎として、各組織の構造と機能、それらの損傷総論を学習し、理解する。
各論では顎関節脱臼、脊椎の脱臼などを、担当教員の実務経験を基に理解を深める。

2 到達目標

関連ある解剖学の学習を同時におこないながら、関節損傷の分野を理解していく。
解剖学などの専門基礎分野を学習することで、柔道整復師が業務として取り扱う運動器の損傷についての基礎を理解することを目標とする。

3 授業の方法

スライドを用いた講義を中心に、資料を配布しながら授業を行う。

4 成績評価方法

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後には、その日のうちに必ず復習してください。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師になるうえで、大事な基礎内容となります。
短期記憶にならないよう復習を行い、一つひとつ確実に理解していきましょう。
不安なところはそのままにせず、質問してください。

9 教員氏名（ 川嶋 奈々美 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション / 関節の構造と機能① ― 解剖
2	関節の構造と機能②
3	関節の構造と機能③
4	関節損傷の概説
5	関節部損傷の分類①
6	関節部損傷の分類②
7	鑑別診断を要する類症
8	脱臼：定義と概説、発生頻度
9	脱臼の分類①
10	脱臼の分類②
11	脱臼の分類③
12	脱臼の症状
13	脱臼の合併症
14	前期のまとめ
15	定試験解説、まとめ復習
16	脱臼：定義と概説、発生頻度
17	関節構成組織損傷（1）靱帯，関節包の損傷
18	関節構成組織損傷（2）関節周辺を通過あるいは起始停止する筋・腱の損傷
19	関節構成組織損傷（3）関節軟骨損傷
20	関節構成組織損傷（4）その他関節構成組織の損傷①
21	関節構成組織損傷（4）その他関節構成組織の損傷②
22	まとめ復習
23	脱臼各論 ― 頭部、顔面の脱臼 A 顎関節脱臼①
24	A 顎関節脱臼②
25	B 頸椎の脱臼
26	C 胸椎の脱臼
27	まとめ復習①
28	まとめ復習②
29	まとめ復習③
30	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・運動器の軟部組織をその形態と構造を学びながら、それらの損傷についての基礎を学習する。
- ・頭部、体幹の軟部組織損傷の各理論を学習する。
- ・講師の実務経験で得た臨床例を挙げて説明し、各損傷の要点を理解する。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症状などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業態度や質問の返答など、授業に対して積極的な姿勢も成績評価に加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせずに、その都度質問をするなりして、吸収してください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有： 柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション / 運動器の軟部組織
2	A 筋の形態と機能①
3	A 筋の形態と機能②
4	B 筋損傷の概説
5	C 筋損傷の分類①
6	C 筋損傷に分類②
7	D 筋損傷の症状、E 筋損傷の治癒機序
8	F 筋損傷の予後
9	A 腱の構造と機能①
10	A 腱の構造と機能②、 B 腱損傷の概説
11	C 腱損傷の分類①
12	C 腱損傷の分類②
13	E 腱損傷の治癒機序
14	まとめ復習
15	定期試験の解説
16	末梢神経の損傷 — A 神経の構造と機能①
17	A 神経の構造と機能②
18	B 神経損傷の概説、 C 神経損傷の分類①
19	C 神経損傷の分類② D 末梢神経の症状①
20	D 末梢神経の症状②
21	E 末梢神経の治癒過程
22	まとめ復習
23	頭部、体幹の軟部組織損傷 A 頭部、顔面部の軟部組織損傷
24	B 頸部の軟部組織損傷①
25	B 頸部の軟部組織損傷②
26	C 胸・背部の軟部組織損傷①
27	C 胸・背部の軟部組織損傷②
28	D 腰部の軟部組織損傷
29	まとめ復習
30	定期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復師の歴史、柔道整復術の施術内容、心得を学び、基礎知識を学習し、施術法（治療法）の基礎を学習する。各論として、頭部から体幹、腰部の骨折について学ぶ。担当教員の実務経験を基に各外傷の特徴等を解説する。

2 到達目標

柔道整復師についての理解力を深め、柔道整復術の基礎を理論から学び、習得し、専門基礎科目の理解、知識を学び、将来の基礎を築くことを目標とする。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、板書を中心に、資料やスライドを使用し学習する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出席状況も加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画に沿った教科書の復習を行い、教科書をただ読むだけではなく、要点をノートに書き、自分に沿ったまとめノートを作成する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

日々の学習習慣を身につけ、柔道整復師として必要な知識を習得し、国家試験合格を目指してください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術管理者として 20 年の勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	柔道整復師の歴史、医学史
2	柔道整復術について
3	整復法：徒手整復時の配慮 ①整復目的の説明と理解 ②整復環境の整備
4	整復法：徒手整復時の配慮 ③既往歴ならびに他疾患との関連 ④合併症の確認
5	整復法：徒手整復時の配慮 ⑤整復手技の確認 ⑥整復手技の注意
6	骨折の整復について
7	非観血的整復の要点 ①早期の整復 ②整復とは
8	非観血的整復の要点 ③整復が不要な場合 ④整復が適応しない場合
9	整復の一般原則について
10	整復の分類について（牽引直圧・屈曲整復法）
11	脱臼の整復法について
12	脱臼の整復法（非観血的整復の要点・原則・分類）
13	軟部組織損傷の初期処置（捻挫・筋挫傷・初期処置）
14	固定法について（固定施行時の配慮・固定の目的）
15	試験返却&解説
16	頭部・体幹の骨折 ／ 頭部・顔面の骨折 ①-1 頭蓋骨骨折
17	頭部・体幹の骨折 ／ 頭部・顔面の骨折 ①-2 頭蓋骨骨折
18	脳震盪について
19	頭部・体幹の骨折 ／ 頭部・顔面の骨折 ①-1 顔面頭蓋骨折
20	頭部・体幹の骨折 ／ 頭部・顔面の骨折 ①-2 顔面頭蓋骨折
21	頸椎の骨折 ①-1 上位頸椎骨折
22	頸椎の骨折 ①-2 上位頸椎骨折
23	頸椎の骨折 ①-1 中下位頸椎骨折
24	頸椎の骨折 ①-2 中下位頸椎骨折
25	胸椎の骨折 ①-1 上部胸椎棘突起骨折
26	胸椎の骨折 ②-1 胸椎の椎体骨折
27	胸椎の骨折 ②-2 胸椎の椎体骨折
28	腰椎の骨折 ①
29	総復習
30	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

— 外傷の保存療法 —

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

柔道整復師として備えるべき外傷性疾患への対応能力の強化を図るため、外傷の保存療法を知り、下肢骨折の各論を通じ、外傷の経過及び治癒判断の基礎を学ぶ。担当講師の実務経験をもとに臨床現場での対応も要所に取り入れて行う。

2 到達目標

外傷の保存療法の基礎を学習し、治癒判定の判断力を身につける。

下肢骨折の各論を学習し、各損傷の保存療法の方法とその限界を知る。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につける必要があります。理解を深めるためにも授業に集中し、不明な点は後回しせずにその都度質問をするように心掛けてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名 (基礎柔道整復学Ⅴ)

回数	授業内容
1	運動器系の疼痛を訴える場合の施術 — 損傷の観察：観察および問診①
2	触診 — 腫脹の硬さに触れる、筋の硬さに触れる
3	機能的診察 — 可動域制限の有無、動作に伴う疼痛、トリックモーション
4	鑑別診断、合併症の有無を判定、説明と同意、治癒の判定
5	骨盤骨骨折①
6	骨盤骨骨折②
7	大腿骨骨折①
8	大腿骨骨折②
9	大腿骨骨折③
10	大腿骨骨折④
11	膝蓋骨骨折、下腿骨骨折①
12	下腿骨骨折②
13	下腿骨骨折③
14	下腿骨骨折④
15	試験解説
16	前期の復習
17	足根骨骨折①
18	足根骨骨折②
19	足根骨骨折③
20	中足骨骨折
21	足趾骨骨折
22	股関節脱臼①
23	股関節脱臼②
24	膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼①
25	膝関節脱臼②
26	足部の脱臼①
27	足部の脱臼②
28	まとめ復習①
29	まとめ復習②
30	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・柔道整復師の後療法を学習する。
- ・指導管理を学習する。
- ・上肢骨折の各論を学習する。
- ・臨床現場で使用する物理機器などを紹介し、使用方法を説明する。
- ・実務経験のある教員による学習。

2 到達目標

柔道整復師として損傷への施術方法を学び、柔道整復術の基礎を習得する。
上肢骨折（鎖骨骨折から上腕骨骨折）の各論を学び、各損傷の理論を理解する。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として働くために必要な知識になり、国家試験の合格にも繋がるので、授業は集中して、理解を深めてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (臨床柔道整復学Ⅰ)

回数	授業内容
1	後療法について A 用量 B 患者の準備
2	C 手技療法①
3	C 手技療法②
4	D 運動療法①
5	D 運動療法②
6	D 運動療法③
7	E 物理療法①
8	E 物理療法②
9	E 物理療法③
10	E 物理療法④
11	指導管理 A 患者とその環境の把握 B 患者の環境に対する指導管理
12	C 自己管理に対する指導
13	まとめ復習①
14	まとめ復習②
15	試験の解説
16	上肢骨折各論 A 鎖骨骨折①
17	A 鎖骨骨折②
18	B 肩甲骨の骨折①
19	B 肩甲骨の骨折②
20	C 上腕骨近位の部骨折①
21	C 上腕骨近位の部骨折②
22	C 上腕骨近位の部骨折③
23	D 上腕骨骨幹部骨折①
24	D 上腕骨骨幹部骨折②
25	E 上腕骨遠位の部骨折①
26	E 上腕骨遠位の部骨折②
27	E 上腕骨遠位の部骨折③
28	まとめ復習①
29	まとめ復習②
30	後期定期試験

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

上肢の骨折（上腕骨近位～から手指骨）、上肢の脱臼の各論を学習する。

担当講師の実務経験をもとに、各損傷への対応も学ぶ。

2 到達目標

柔道整復師として上肢の各部位の骨折及び上肢の各関節の脱臼の診察、保存療法の
施術につながるように、理論を詳細に学習し、理解し、施術の限界も知る。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の
配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶が身につくため教科書を反復学習し、わからない部分を
無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

覚えることが多い科目ですが国家試験の出題頻度も高いので、知識と理解を深めて
いきましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ： 柔道整復師施術所において施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名 (臨床柔道整復学Ⅱ)

回数	授業内容
1	F 前腕骨近位部の骨折①
2	F 前腕骨近位部の骨折②
3	G 前腕骨骨幹部骨折①
4	G 前腕骨骨幹部骨折②
5	G 前腕骨骨幹部骨折③
6	H 前腕骨遠位部の骨折①
7	H 前腕骨遠位部の骨折②
8	H 前腕骨遠位部の骨折③
9	I 手根骨骨折①
10	I 手根骨骨折②
11	J 中手骨部の骨折①
12	J 中手骨骨折②
13	まとめ復習①
14	まとめ復習②
15	答案返却および解説
16	K 指骨の骨折①
17	K 指骨の骨折②
18	上肢の脱臼 — A 鎖骨の脱臼①
19	A 鎖骨の脱臼②
20	B 肩関節脱臼①
21	B 肩関節脱臼②
22	B 肩関節脱臼③
23	C 肘関節の脱臼①
24	C 肘関節の脱臼②
25	D 手関節部の脱臼①
26	D 手関節部の脱臼②
27	E 手根中手関節脱臼 F 中手指関節、指節間関節の脱臼①
28	F 中手指関節、指節間関節の脱臼②
29	まとめ復習
30	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

上肢、下肢の軟部組織損傷の各論を学習する。担当教員の実務経験による各損傷の臨床上の留意点を取り入れて講義する。

2 到達目標

各損傷の発生機序、分類、臨床症状を理解し、柔道整復師の業務範囲内外を明確にすることで、臨床力の基礎を修得することを目標とする。

3 授業の方法

板書を基本に、スライドや資料を用いて進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業毎に進度計画に沿った教科書の予習、復習を行うこと。

特にノートの転帰事項の整理、配布プリントの整理を怠らないこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

各損傷の発生機序や症状、治療法の基礎を学ぶので、1回の欠席もないようにしましょう。理解しづらい用語や、理論の内容があれば、質問し確実に理解してください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	上肢の軟部組織損傷 ― A 肩関節部の軟部組織損傷①
2	A 肩関節部の軟部組織損傷②
3	A 肩関節部の軟部組織損傷③
4	A 肩関節部の軟部組織損傷④ B 上腕部の軟部組織損傷①
5	B 上腕部の軟部組織損傷② C 肘関節部の軟部組織損傷①
6	C 肘関節部の軟部組織損傷②
7	D 前腕部の軟部組織損傷①
8	D 前腕部の軟部組織損傷②
9	E 手関節部の軟部組織損傷①
10	E 手関節部の軟部組織損傷②
11	F 手部、指部の軟部組織損傷①
12	F 手部、指部の軟部組織損傷②
13	F 手部、指部の軟部組織損傷③
14	まとめ復習
15	試験解説、前期復習
16	下肢の軟部組織損傷 ― A 股関節の軟部組織損傷①
17	A 股関節の軟部組織損傷②
18	B 大腿部の軟部組織損傷①
19	B 大腿部の軟部組織損傷②
20	C 膝関節部の軟部組織損傷①
21	C 膝関節部の軟部組織損傷②
22	C 膝関節部の軟部組織損傷③
23	D 下腿部の軟部組織損傷①
24	D 下腿部の軟部組織損傷②
25	E 足関節部の軟部組織損傷①
26	E 足関節部の軟部組織損傷②
27	F 足・趾部の軟部組織損傷①
28	F 足・趾部の軟部組織損傷②
29	まとめ復習
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学 年 3 年

1 授業の内容

頭部，体幹，上肢の骨折の各論を復習し，特に臨床的に重要な知識を学習する。
担当教員の実務経験を具体例として挙げて説明し，臨床力の基礎を身につけさせる。

2 到達目標

各損傷の特徴をさらに理解し，診察法を基本に，損傷を明確に評価できる根拠を症状から読み取れる応用力を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

演習問題を解きながら，復習を行っていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験合格も視野に入れ，自己の学習状況を常に分析し，学習計画をきちんと立て，それに沿った自己学習を心がけてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ： 柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	頭部，顔面部の骨折 ① 頭蓋骨骨折，顔面頭蓋骨折
2	頭部，顔面部の骨折 ② 頭蓋骨骨折，顔面頭蓋骨折
3	頸椎の骨折、胸椎の骨折、腰椎の骨折 ①
4	頸椎の骨折、胸椎の骨折、腰椎の骨折 ②
5	胸部の骨折 － 肋骨骨折、胸骨骨折
6	上肢の骨折 － 鎖骨骨折（定型的骨折，整復法，固定法を除く）
7	肩甲骨の骨折
8	上腕骨近位端部の骨折 ①
9	上腕骨近位端部の骨折 ②
10	上腕骨骨幹部骨折
11	上腕骨遠位端部骨折 ①
12	上腕骨遠位端部骨折 ②
13	前腕骨近位端部骨折 ①
14	前腕骨近位端部骨折 ②
15	試験解説、前期復習
16	前腕骨骨幹部骨折
17	前腕骨遠位端部骨折 ① （コーレス骨折整復法，固定法を除く）
18	前腕骨遠位端部骨折 ② （コーレス骨折整復法，固定法を除く）
19	手根骨骨折 ①
20	手根骨骨折 ②
21	中手骨骨折 ①
22	中手骨骨折 ②
23	指骨骨折 ①
24	指骨骨折 ②
25	頭部，顔面部の骨折 復習
26	脊椎の骨折 復習
27	上腕骨骨折 復習
28	前腕骨骨折 復習
29	手根骨、中手骨、指骨骨折 復習
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学 年 3 年

1 授業の内容

柔道整復学の総論および下肢骨折の各論を復習し、臨床的に重要な知識を学習する。
担当教員の実務経験を具体例として挙げて説明し、臨床力の基礎を理解させる。

2 到達目標

総論の内容は、各損傷を理解するうえで礎となるものである。したがって、総論を詳細にわたる範囲で学びなおし、理解度を深めることを目標とする。

3 授業の方法

演習問題を解きながら、復習を行っていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験合格も視野に入れ、自己の学習状況を常に分析し、学習計画をきちんと立て、それに沿った自己学習を心がけてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

回数	授業内容
1	損傷時に加わる力、痛みの基礎
2	骨の損傷 ① 分類
3	骨の損傷 ② 症状 合併症
4	骨の損傷 ③ 小児骨折 高齢者骨折
5	骨の損傷 ④ 癒合日数 治癒経過 予後
6	関節損傷 ① 概説 分類
7	関節損傷 ② 損傷組織 類症
8	関節損傷 ③ 脱臼
9	筋損傷
10	腱損傷
11	末梢神経損傷
12	診察 ① 注意点 概説 時期による分類 治療計画作成
13	診察 ② 施術録の扱いと記載の実際
15	まとめ復習
14	試験解説、前期復習
16	治療法 ①
17	治療法 ②
18	骨盤骨骨折 ①
19	骨盤骨骨折 ②
20	大腿骨骨折 ①
21	大腿骨骨折 ②
22	膝蓋骨骨折、下腿骨骨折 ①
23	下腿骨骨折 ②
24	下腿骨遠位端部骨折、足関節脱臼骨折 ①
25	下腿骨遠位端部骨折、足関節脱臼骨折 ②
26	足根骨骨折 ①
27	足根骨骨折 ②
28	中足骨骨折、趾骨骨折
29	まとめ復習
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ：物理療法機器の取扱い ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

・国家試験に対応できる専門的知識と柔道整復師の業務である後療法に用いられる物理的エネルギーの取り扱いを学ぶ。臨床経験を活かし、物理療法を行うにあたり、具体的な生体反応などを学ぶ。物理療法によってどのように治癒の促進がなされていくかを学ぶ。

2 到達目標

・柔道整復師に必要な物理的原理を理解する。安全な各種物理療法機器の取り扱いを習得する。外傷に対し、適切な危機を選択・設定できるようにする。

3 授業の方法

・教科書を中心とした講義や実技。及び各項目終了後に課題を行う。

4 成績評価方法・基準

・定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

・質問への返答、課題に対する理解度

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

・事前に教科書の予習、直後の復習により知識が定着する。さらに教科書以外の参考書で学習する事によりさらに理解が深まる。

7 使用教材，教具

・全国柔道整復師学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の業務を理解し、物理療法機器の使用方法、禁忌をしっかりと理解できるように、なっていただきたい。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有：柔道整復師施術所で施術管理者として 19 年の実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	物理療法の分類
3	物理療法の説明と同意
4	物理療法の禁忌
5	物理療法施行時の患者体位や患肢の肢位
6	物理療法の刺激強度
7	物理療法の変更
8	物理療法の指導管理
9	物理療法機器の安全対策
10	電気療法（低周波電気刺激療法）
11	電気療法（中周波電流療法）
12	変換熱療法（超音波療法）
13	伝導熱療法（ホットパック療法）
14	まとめ復習
15	試験解説、前期復習
16	伝導熱療法（パラフィン浴療法・水治療法）
17	輻射熱療法
18	変換熱療法（超短波療法）
19	変換熱療法（極超短波療法）
20	変換熱療法（超音波療法）
21	光線療法
22	寒冷療法（伝導冷却法）
23	寒冷療法（対流冷却法）
24	寒冷療法（気化冷却法）
25	牽引療法（頸椎介達牽引）
26	牽引療法（腰椎介達牽引）
27	間欠的圧迫法
28	まとめ復習（１）
29	まとめ復習（２）
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

柔道整復術の臨床的判定・医用画像

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

・骨折、脱臼、捻挫などの外傷に対して、柔道整復師として適切な臨床診断と画像診断（特に超音波画像）を組み合わせ、施術適応かどうかを判断する能力を養うため、実務経験を基にして、実践的能力を身に着ける。

・柔道整復師に不可欠な教養の要素である当該科目を、後期末に実施する「卒業試験」の評価と連動する。

2 到達目標

・柔道整復師の業務で患者を危険にさらさないため、臨床所見と画像初検の整合性を学び、判断能力を養い、医科との連携を学ぶ。

3 授業の方法

・教科書、画像資料を用いた授業を行う。

4 成績評価方法・基準

- ・定期試験 50%
- ・卒業試験 50%

5 評価の際の特記事項

・特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

・授業進度計画に沿って教科書の予習・復習を行うこと。

7 使用教材，教具

・全国柔道整復協会監修「施術の適応と医用画像の理解」南江堂

8 学生へのメッセージ

・柔道整復師として働くために必要不可欠な知識であり、卒業判定の科目ともなっている
ので、より理解を深めていただきたい。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者として 19 年の実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	柔道整復術の適否
2	損傷に類似する症状を示す疾患 1
3	損傷に類似する症状を示す疾患 2
4	血流障害を伴う損傷
5	末梢神経損傷を伴う損傷
6	脱臼骨折
7	外出血を伴う損傷 1
8	外出血を伴う損傷 2
9	外出血を伴う損傷 3
10	病的骨折および脱臼
11	意識障害を伴う損傷
12	脊髄症状のある損傷 1
13	脊髄症状のある損傷 2
14	まとめ復習
15	試験解説、前期復習
16	呼吸運動障害を伴う損傷
17	内臓損傷の合併が疑われる損傷
18	高エネルギー外傷
19	医用画像とは、放射線の概要
20	主要な部位の一般撮影法
21	画像のデジタル化
22	CT の概要
23	CT 撮影の実際
24	MRI の概要
25	MR 検査の手順
26	超音波画像装置の概要
27	運動器系の画像
28	臨床画像の実際
29	まとめ復習
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師が臨床上接することの多い各種軟部組織損傷の詳細な内容を学習する。
担当教員の臨床経験をもとに、各損傷の初期処置から施術法についての基礎力を身につける。

2 到達目標

2年次に学習した内容を振り返り、さらに詳細な臨床症状、治療法、後療法の理論を学習し、習得する。

3 授業の方法

教科書の内容を中心に、PCプロジェクターを使用したパワーポイントによる講義。
パワーポイントの内容については資料を配布し、講義内容の補助とする。必要に応じて板書を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業前に予め教科書を読んでおくこと。復習は、その日のうちに学習した内容をもう一度見直し、不明な点を不明なままにしないようにする。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復術を体得するためには、外傷の基礎をしっかりと習得することです。
理論を理解することで施術の技術習得に繋がるので、積極的に学習してください。
国家試験合格も視野に入れ、自己学習に活かせるように授業に取り組みましょう。

9 教員氏名（ 本田 光太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

回数	授業内容
1	頭部、顔面部の軟部組織損傷 ①
2	頭部、顔面部の軟部組織損傷 ②
3	頸部の軟部組織損傷
4	胸・背部、腰部の軟部組織損傷
5	肩関節部の軟部組織損傷
6	上腕部の軟部組織損傷
7	肘関節部の軟部組織損傷
8	前腕部の軟部組織損傷 ①
9	前腕部の軟部組織損傷 ②
10	手関節の軟部組織損傷 ①
11	手関節の軟部組織損傷 ②
12	手部・指部の軟部組織損傷 ①
13	手部・指部の軟部組織損傷 ②
14	まとめ復習
15	試験解説、前期復習
16	股関節の軟部組織損傷
17	大腿部の軟部組織損傷
18	膝関節部の軟部組織損傷 ①
19	膝関節部の軟部組織損傷 ②
20	膝関節部の軟部組織損傷 ③
21	下腿部の軟部組織損傷 ①
22	下腿部の軟部組織損傷 ②
23	足関節部の軟部組織損傷 ①
24	足関節部の軟部組織損傷 ②
25	足・趾部の軟部組織損傷 ①
26	足・趾部の軟部組織損傷 ②
27	軟部組織損傷の徒手検査法 ①
28	軟部組織損傷の徒手検査法 ②
29	まとめ復習
30	試験解説、前期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復術を臨床的に実践するための指導管理及び外傷予防を，シミュレーションを交えながら，教員の実務経験で培った臨床力を授業進行に合わせ盛り込みながら実施する。

2 到達目標

すでに学んだ各損傷の理論を，実際に施術に活かせるように，その指導管理及び外傷予防について，更なる理解力を身につける事を目標とする。

3 授業の方法

資料配布後，スライドを中心に講義を行う。

授業内容に沿った過去問題を解き、解説する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を徹底して実施し，自己の理解度を分析し，学習方法を確立していく。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師は治療だけでなく，その後の管理や外傷予防も大切です。

国家試験合格も視野に入れた，自己学習に活かせるように，授業に集中しましょう。

9 教員氏名（ 川嶋 奈々美 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

回数	授業内容
1	指導管理 ― 患者とその環境の把握
2	指導管理 ― 患者の環境に対する指導管理
3	日常生活動作，環境の指導管理 ― 臥床時の体位，患肢保持
4	姿勢や肢位の指導管理
5	歩行の指導管理
6	衣服，食事動作，入浴，清潔保持・保清，トイレの指導管理
7	体調把握の指導管理
8	施術所外でできる運動の指導管理
9	住宅環境に対する指導管理 ― 部屋，寝具，家具，トイレ様式，浴室の指導管理
10	就労環境，就学環境，スポーツ活動に対する指導管理
11	就労環境の指導管理
12	就学環境，スポーツ活動の指導管理
13	自己管理に対する指導
14	まとめ復習
15	試験解説、前期の復習
16	外傷予防概論
17	外傷予防 ― 第一段階
18	運動機能向上と教育活動
19	身体の基礎的状态の評価と対応 ― 健康と体調管理
20	健康と体調管理 ― 年齢，性別，既往歴・現病歴・家族歴
21	健康と体調管理 ― 体組成，バイタルサイン，栄養状態，睡眠状態
22	健康と体調管理 ― 体格・体型，体位・姿勢，四肢の形態
23	身体とそれに伴う状態 ― 基礎体力，関節可動域と柔軟性
24	付帯する環境要因の評価と対応
25	外傷予防啓発などの教育活動
26	メンタルヘルスを保つ活動
27	特異的予防 ― 発生機序の評価と対応
28	第二段階：早期発見，早期治療 第三段階
29	まとめ復習
30	試験解説、後期の復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の概要

- ・基本包帯法の技術を習得。
- ・各部位への包帯法の技術を習得。
- ・軟性材料、硬性材料の作成、固定法の習得。
- ・講師の実務経験から得た固定法のポイントを説明し、実践する。

2 到達目標

- ・基本包帯法、冠名包帯法、各部位の包帯固定の基礎技術を身に着ける。
- ・硬性材料の作成方法を習得する。

3 授業方法

- ・教科書を用いた講義及び講義内容に関連する実技の実践。

4 成績評価方法・基準

- ・定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

- ・身だしなみ及び言葉遣いも評価の対象となります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

- ・授業時間外の反復練習が技術向上の鍵です。
- ・様々な体型や体格の方、違う性別の方に包帯を巻くことも大切です。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・包帯固定学は柔道整復師の基本であり、習得することによりテーピングなどの応用にも繋がります。臨床現場でも必要な技術であり、技術が身に付くことの楽しさを学んでほしいです。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名 (柔道整復実技Ⅰ)

回数	授業内容
1	前期ガイダンス
2	固定及び固定材料について
3	巻軸帯の巻き方と注意事項、巻軸帯の巻き戻し
4	基本包帯法 ①環行帯、螺旋帯、蛇行帯
5	基本包帯法 ②環行帯、螺旋帯、蛇行帯
6	基本包帯法 ③環行帯、螺旋帯、蛇行帯
7	基本包帯法 ①折転帯、亀甲帯、麦穂帯
8	基本包帯法 ②折転帯、亀甲帯、麦穂帯
9	冠名包帯法①
10	冠名包帯法②
11	冠名包帯法③
12	三角巾を用いた固定
13	基本包帯法の応用①
14	基本包帯法の応用②
15	前期試験の解説
16	各部位 肩部の包帯
17	各部位 上腕部から肘関節部の包帯
18	各部位 前腕部から手関節部の包帯
19	各部位 手指の包帯
20	各部位 下腿部から足関節部の包帯
21	硬性材料① － 厚紙副子固定 上肢
22	硬性材料② － 厚紙副子固定 下肢
23	硬性材料③ － アルフェンス固定 上肢
24	硬性材料④ － アルフェンス固定 上肢
25	硬性材料⑤ － プライトン副子固定 上肢
26	硬性材料⑥ － プライトン副子固定 下肢
27	硬性材料⑦ － キャストライト
28	硬性材料⑧ － キャストライト
29	後期まとめ
30	後期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・柔道整復術の診察法の基礎を学ぶ。
- ・テーピングの基礎技術を学ぶ。
- ・スポーツコンディショニングの基礎実技を学ぶ。
- ・講師のスポーツ現場での実務経験を活かし、より実践的な手法を学ぶ。

2 到達目標

診察法の手順を，医療面接をもとにロールプレイなどを行いながら学んでいく。
テーピングの種類，巻き方，応用などを実技で習得する。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら，診察法の基本を，ロールプレイを通して行う。
互いにテーピングを施行し，その効果を評価し合う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

実習着は必ず着用してください。着用のない場合は減点対象となります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

各自復習を心がけてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・臨床力を身に付けるために，集中して取り組んでください。
- ・実習着は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし，装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

回数	授業内容
1	ガイダンス：テーピング理論（１）
2	テーピング理論（２）
3	テーピングの実際：テーピング基礎（１）
4	テーピングの実際：テーピング基礎（２）
5	テーピングの実際：テーピング基礎（３）
6	上肢テーピング①
7	上肢テーピング②
8	上肢テーピング③
9	上肢テーピング④
10	下肢テーピング①
11	下肢テーピング②
12	下肢テーピング③
13	下肢テーピング④
14	前期まとめ
15	試験の解説
16	スポーツコンディショニングの基礎：コンディショニングとは
17	コンディショニングに関する要因
18	コンディショニングを崩す要因とは
19	コンディショニングのポイント①
20	コンディショニングのポイント②
21	プライマリーチェックの指標
22	スポーツ障害の発生要因
23	ストレッチング理論①
24	ストレッチング理論②
25	各運動領域におけるストレッチング①
26	各運動領域におけるストレッチング②
27	各運動領域におけるストレッチング③
28	各運動領域におけるストレッチング④
29	後期まとめ
30	定期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

- ・柔道整復術の各種固定法および徒手検査法を、担当教員の実務経験を取り入れて学ぶ。
- ・**臨床実習前の適正、適応試験の実施。**

2 到達目標

- ・柔道整復術を基本技法の固定材料の種類、特性を学び、それらの実践技術を修得する。
- ・徒手検査法の知識と技術を修得する。

3 授業の方法

実習室において実技実習を行い、施術法を体得する。

必要に応じて資料を配布する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 実技試験 80%，授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

出欠席，容姿（実習着，髪色，爪など），衛生材料の管理を授業態度として評価します。

授業に関係のないスマートフォンの使用は減点の対象とします。

6 授業時間外学習

授業進行計画を参考に，事前に内容を確認，予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」 南江堂

資料配布

8 学生へのメッセージ

- ・実技実習は臨床で重要になります，授業に集中し不安に思ったことは質問し理解を深めてください。
- ・実習着は常に清潔にし，爪は短くし，装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 川嶋 奈々美 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 柔道整復師業務
2	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察（１） 実技編 P5～P9
3	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察（２） 実技編 P5～P9
4	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察（３） 実技編 P5～P9
5	損傷の診察（視診・問診）
6	損傷の診察（触診）
7	損傷の診察（検査）
8	損傷の診察（評価）
9	体表解剖：上肢触診
10	体表解剖：下肢触診
11	体表解剖：体幹触診
12	ロールプレイングを用いた触診①
13	ロールプレイングを用いた触診②
14	前期まとめ
15	試験解説 まとめ復習
16	徒手整復の実際：骨折整復の基礎（１）
17	徒手整復の実際：骨折整復の基礎（２）
18	徒手整復の実際：脱臼整復の基礎（１）
19	徒手整復の実際：脱臼整復の基礎（２）
20	徒手整復の実際：脱臼整復の基礎（３）
21	軟部組織損傷の初期処置法（１）
22	軟部組織損傷の初期処置法（２）
23	軟部組織損傷の初期処置法（３）
24	軟部組織損傷の初期処置法（４）
25	臨床実習について （１）
26	臨床実習について （２）
27	臨床実習について （３）
28	後期まとめ復習 （１）
29	後期まとめ復習 （２）
30	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ ）

— 高齢者の外傷予防 —

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

高齢者の身体の生理的、機能的特徴を理解し、高齢者に発生頻度の高い外傷について、その発生原因と予防について、担当教員の施術管理者として20年間で体験した高齢者への施術例を参考に学ぶ。

2 到達目標

柔道整復術を基本に、機能訓練指導やリハビリテーションからみた、高齢者の外傷予防の知識を修得する。

3 授業の方法

実習室において実技実習を行い、施術法を体得する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

欠席回数、容姿（実習着、髪色、爪など）、衛生材料の管理を授業態度として評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復師と機能訓練指導」 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「競技者の外傷予防」 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

- ・柔道整復師が高齢者に関わる施術について、高齢者の身体的特徴や外傷を学び、その外傷予防の知識を身につけてください。
- ・実習着は常に清潔に、爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外すこと。
- ・女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術管理者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ ）

回数	授業内容
1	高齢者の身体的特徴：生理学的特徴
2	ロコモティブシンドロームとは
3	ロコモティブシンドロームと運動器不安定症との相違，ロコチェック
4	ロコモーショントレーニング
5	高齢者の転倒予防
6	機能訓練指導員，介護予防・機能訓練指導員認定柔道整復師
7	リハビリテーションと機能訓練の相違
8	機能訓練の対象となる障害の捉え方
9	高齢者の疾患の特徴
10	高齢者に多い外傷
11	高齢者の外傷予防
12	高齢者への施術の限界
13	機能訓練で提供する運動と要点
14	まとめ復習
15	試験解説、まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅴ ）

－ 競技者の外傷予防 －

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

競技者の外傷予防について、運動生理学を理解しながら、スポーツ外傷や障害の予防法を理論とその実際を、担当教員の施術管理者として20年間で体験した、競技者への施術例を参考に学ぶ。

2 到達目標

各種競技の特徴を学びながら、運動生理学の理論を理解し、好発する各損傷を知り、それらの予防法の基礎を修得する。

3 授業の方法

理論学習は教室で、実技実習は実習室において実施します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

欠席回数、容姿（実習着、髪色、爪など）、衛生材料の管理を評価に加味します。

6 授業時間外学習

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「競技者の外傷予防」 医歯薬出版
資料配布

8 学生へのメッセージ

- ・専門基礎医学である生理学の理解と、運動学で引用される解剖学の理解度が求められるので、各科目の予習と復習をするようにしてください。
- ・実習着は常に清潔にし、爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ： 柔道整復施術所において施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業。

1 1 科目名（ 柔道整復実技Ⅴ ）

回数	授業内容
1	運動生理学の概要 ― 運動が生体に与える影響 運動のメリット
2	運動のエネルギー代謝 ― 無酸素性エネルギー供給機構
3	有酸素性エネルギー供給機構
4	無酸素性エネルギー供給機構
5	運動と呼吸・循環 ― 呼吸、酸素摂取量、循環
6	運動とホルモン
7	競技者の運動生理学的特徴
8	外傷の発生原因 ― 内因要因、外的要因
9	外傷の予防対策
10	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック（評価と測定）①
11	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック（評価と測定）②
12	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際①
13	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際②
14	種目別の外傷予防とその実際
15	試験解説、まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床上発生頻度の高率な骨折、脱臼、軟部組織損傷の診察法、整復法及び検査法の基本手順を理解し、実技実習を通して学習する。担当教員の実務経験で得た各損傷に対する対応も学ぶ。

2 到達目標

各損傷の特徴、発生機序や症状を理解し、それらの診察手順、整復や検査法の基礎を、実技をとおして学習し、柔道整復術の基本を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら、診察法、整復法、固定法、検査法をロールプレイを通して行う。必要に応じて資料を配布する。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

身だしなみ・挨拶・言葉遣いも評価の対象となります。

また、授業中の許可がないスマートフォンなどの電子機器の使用は減点対象です。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

柔道整復学の理論編と関連付けて理解を深めてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂

配布資料

8 学生へのメッセージ

- ・1年次で学習した各損傷の総論、診察法、施術方法の基礎技術を身に付けましょう。
- ・臨床力を身に付けるために、医療面接、患者への対応なども実践できるように、ロールプレイングを通して学びましょう。
- ・理解の足りない個所があれば、いつでも質問するように心がけてください。
- ・実習着は常に清潔を心がけてください。爪は短くし、装飾品（指輪・ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 本田 光太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

回数	授業内容
1	肩鎖関節上方脱臼 診察法，整復法
2	肩鎖関節上方脱臼 固定法（ロバート・ジョーンズ絆創膏固定）
3	肩鎖関節上方脱臼 1度、2度、3度損傷の固定法
4	肩関節前方烏口下脱臼 診察法，整復法（コッヘル法）
5	肩関節前方烏口下脱臼 整復法（ヒポクラテス法、ゼロポジション法）
6	肩関節前方烏口下脱臼 固定法①
7	肩関節前方烏口下脱臼 固定法②
8	肘関節後方脱臼 診察法，整復法（第1法）
9	肘関節後方脱臼 整復法（第2法） 固定法（金属クラーメル副子固定）
10	肘関節後方脱臼 固定法②
11	肘内障 診察法，整復法
12	第2指 PIP 背側脱臼 診察法，整復法，固定法
13	まとめ復習①
14	まとめ復習②
15	試験解説、前期復習
16	肩関節の軟部組織損傷 腱板損傷 診察法，検査法
17	肩関節の軟部組織損傷 腱板損傷 検査法
18	肩関節の軟部組織損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷 診察法，検査法
19	膝関節側副靱帯損傷 診察法，検査法
20	膝関節十字靱帯損傷 診察法，検査法
21	膝関節半月板損傷 診察法，検査法
22	膝関節軟部組織損傷 テーピング固定法①
23	膝関節軟部組織損傷 テーピング固定法②
24	足関節外側靱帯損傷 診察法、固定法（厚紙副子固定）①
25	足関節外側靱帯損傷 診察法、固定法（厚紙副子固定）①
26	足関節の軟部組織損傷 テーピング固定①
27	足関節の軟部組織損傷 テーピング固定②
28	まとめ復習①
29	まとめ復習②
30	試験解説、前期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床上発生頻度の高率な骨折，脱臼，軟部組織損傷の診察法，整復法及び検査法の基本手順を理解し，担当教員の実務経験で得た臨床技術を、実技実習をとおして学習する。

2 到達目標

各損傷の特徴，発生機序や症状を理解し，それらの診察手順，整復や検査法の基礎を，実技をとおして学習し，柔道整復術の基本を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら，診察法，整復法，固定法，検査法を行う。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

身だしなみ・挨拶・言葉遣いも評価の対象となります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

柔道整復学の理論編と関連付けて理解を深めてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

配布資料

8 学生へのメッセージ

- ・1年次で学習した各損傷の総論，診察法，施術方法の基礎技術を身に付けましょう。
- ・臨床力を身に付けるために，医療面接，患者への対応なども実践できるように，ロールプレイングをとおして学びましょう。
- ・理解の足りない個所があれば，いつでも質問するように心がけてください。
- ・実習着は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし，装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

回数	授業内容
1	鎖骨定形的骨折 診察法、整復法
2	鎖骨定形的骨折 整復法（坐位整復法） 固定法（デゾー包帯固定法）
3	鎖骨定型的骨折 整復法（臥位整復法） 固定法（リング固定法，8字帯）
4	鎖骨定型的骨折 固定法（セイヤー絆創膏固定法，厚紙副子固定法）
5	鎖骨定型的骨折 整復法、固定法
6	上腕骨外科頸外転型骨折 診察法，整復法
7	上腕骨外科頸外転型骨折 診察法，整復法、固定法①
8	上腕骨外科頸外転型骨折 固定法②
9	上腕骨骨幹部骨折（三角筋付着部より遠位骨折）固定法①
10	上腕骨骨幹部骨折（三角筋付着部より遠位骨折）固定法②
11	コーレス骨折 診察法，整復法（牽引直圧整復法）
12	コーレス骨折 診察法，整復法（屈曲整復法）
13	コーレス骨折 固定法①
14	コーレス骨折 固定法②
15	試験解説、前期復習
16	肋骨骨折 診察法、固定法①
17	肋骨骨折 診察法、固定法②
18	第5中手骨頸部骨折 診察法、整復法、固定法①
19	第5中手骨頸部骨折 診察法、整復法、固定法②
20	下腿骨幹部骨折 固定法
21	大腿部打撲 診察法、検査法、初期処置①
22	大腿部打撲 診察法、検査法、初期処置②
23	大腿四頭筋肉ばなれ損傷 診察法、検査法、初期処置①
24	大腿四頭筋肉ばなれ損傷 診察法、検査法、初期処置②
25	ハムストリングス筋肉ばなれ 診察法、検査法、初期処置①
26	ハムストリングス筋肉ばなれ 診察法、検査法、初期処置②
27	下腿三頭筋肉ばなれ損傷 診察法、検査法
28	アキレス腱断裂 診察法、検査法、固定法
29	まとめ復習
30	試験解説、前期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ ）

学科名	スポーツ柔整科
学 年	<u>3 年</u>

1 授業の内容

外傷の各論から抜粋し、各損傷の発生機序、臨床症状、固有症状、鑑別法を確認し、
整復法・固定法、応急処置法を実践し、技術を体得する。
担当教員の実務経験を具体例として挙げて、理解させ、臨床力の基礎を学ばせる。

2 到達目標

各損傷の評価法を通して、実際の施術はもとより、合併症なども視野に入れた、応急
手当の方法を体得することを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを中心に実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各外傷の発生機序や臨床症状をしっかりと頭に入れた状態で実技に臨むことができる
よう、予習を重点におき自己学習を行っていくことが不可欠である。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂
全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・理解の足りない個所があれば、いつでも質問するように心がけてください。
- ・実習着は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は
全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ ）

回数	授業内容
1	鎖骨定形の骨折①
2	鎖骨定形の骨折②
3	鎖骨定形の骨折③
4	上腕骨外科頸外転型骨折①
5	上腕骨外科頸外転型骨折②
6	上腕骨外科頸外転型骨折③
7	肩鎖関節上方脱臼①
8	肩鎖関節上方脱臼②
9	肩関節前方烏口下脱臼①
10	肩関節前方烏口下脱臼②
11	肩関節前方烏口下脱臼③
12	肘関節後方脱臼①
13	肘関節後方脱臼②
14	肘関節後方脱臼③
15	試験解説、まとめ復習
16	コーレス骨折①
17	コーレス骨折②
18	コーレス骨折③
19	第5中手骨頸部骨折①
20	第5中手骨頸部骨折②
21	第2中手指節関節背側脱臼①
22	第2中手指節関節背側脱臼①
23	肋骨骨折①
24	肋骨骨折②
25	下腿骨幹部骨折
26	上肢骨折の復習①
27	上肢骨折の復習②
28	上肢脱臼の復習①
29	上肢脱臼の復習②
30	試験解説、まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

・軟部組織損傷について理解し、実際の施術方法を実技で学ぶ。担当教員の実務経験で培った知識、臨床経験を活かし、具体例を挙げて理解力を深める。

2 到達目標

・各損傷の発生機序と臨床症状を理解し、その診察法の手順、検査法の実際を実技実習において、基礎的手法を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

・ロールプレイを基本として実施する。

4 成績評価方法・基準

・定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

・特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）

・授業進行計画を参考に、事前に予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材、教具

・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂
・配布資料

8 学生へのメッセージ

・国家試験受験、認定実技審査受験も視野に入れ、診察法、検査法、固定法（初期処置）の基礎技術を身に付けましょう。ロールプレイングを通し、臨床力を身に付けましょう。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有： 柔道整復師施術所で施術管理者として 19 年の実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ ）

回数	授業内容
1	肩関節軟部組織損傷 ― 肩腱板損傷① ― 診察法、検査法
2	肩関節軟部組織損傷 ― 肩腱板損傷② ― 診察法、検査法
3	肩関節軟部組織損傷 ― 上腕二頭筋長頭腱損傷① ― 診察法、検査法
4	肩関節軟部組織損傷 ― 上腕二頭筋長頭腱損傷② ― 診察法、検査法
5	大腿部軟部組織損傷 ― ハムストリングス肉ばなれ損傷① 診察法、検査法
6	大腿部軟部組織損傷 ― ハムストリングス肉ばなれ損傷② 診察法、検査法
7	大腿部軟部組織損傷 ― 大腿四頭筋打撲損傷① ― 診察法、検査法
8	大腿部軟部組織損傷 ― 大腿四頭筋打撲損傷② ― 診察法、検査法
9	膝関節部軟部組織損傷 ― 側副靱帯損傷① ― 診察法、検査法
10	膝関節部軟部組織損傷 ― 側副靱帯損傷② ― 診察法、検査法
11	膝関節部軟部組織損傷 ― 十字靱帯損傷① ― 診察法、検査法
12	膝関節部軟部組織損傷 ― 十字靱帯損傷② ― 診察法、検査法
13	膝関節部軟部組織損傷 ― 半月板損傷① ― 診察法、検査法
14	膝関節部軟部組織損傷 ― 半月板損傷② ― 診察法、検査法
15	試験解説、前期復習
16	下腿部軟部組織損傷 ― 下腿三頭筋肉ばなれ損傷① ― 診察法、検査法
17	下腿部軟部組織損傷 ― 下腿三頭筋肉ばなれ損傷② ― 診察法、検査法
18	足関節軟部組織損傷 ― 外側靱帯損傷① ― 診察法、検査法
19	足関節軟部組織損傷 ― 外側靱帯損傷② ― 診察法、検査法
20	下腿骨骨幹部骨折 ― クラメル副子固定法①
21	下腿骨骨幹部骨折 ― クラメル副子固定法②
22	アキレス腱断裂 ― クラメル副子固定法①
23	アキレス腱断裂 ― クラメル副子固定法②
24	足関節外側靱帯損傷 ― 局所副子固定法
25	膝関節内側側副靱帯損傷 ― Xサポートテープ固定法
26	足関節外側靱帯損傷 ― バスケットウィーブテープ固定法
27	足関節外側靱帯損傷 ― フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定法
28	まとめ復習①
29	まとめ復習②
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅹ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復の施術の基礎を学び、実践しながら、臨床への対応を理解する。
柔道整復師の日常業務である療養費の取扱いについても学ぶ。

2 到達目標

柔道整復施術の手順を、ロールプレイを通して体感し、理論に一致しているか確認しながら実技を修得することで、臨床の現場で対応できる基礎作りと、併せて、法令の遵守が確実に実践できることを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを基本とする。

4 成績評価方法・基準

実技試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、出席率、積極性なども評価に加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

その日に実施した内容を、その日のうちに再度シミュレーションし、復習する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

実際の臨床現場と思い、真剣に取り組んでください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者として20年の実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技X ）

回数	授業内容
1	診察法の実際
2	問診、視診、触診の方法
3	医療コミュニケーションの実際
4	機能的診察
5	鑑別診断～説明と同意
6	徒手整復、固定法、整復・固定後の確認
7	医科との連携～後療法
8	経過
9	物理療法、手技療法、運動療法
10	治療の判定
11	診察
12	治療法 — 整復法
13	治療法 — 固定法
14	治療法 — 後療法
15	試験解説
16	医療面接の実際① — 問診 ロールプレイ
17	医療面接の実際② — 問診、視診 ロールプレイ
18	医療面接の実際③ — 問診、視診 ロールプレイ
19	医療面接の実際④ — 問診、視診、触診 ロールプレイ
20	医療面接の実際⑤ — 問診、視診、触診 ロールプレイ
21	医療面接の実際⑥ — 問診、視診、触診、検査法 ロールプレイ
22	医療面接の実際⑦ — 問診、視診、触診、検査法 ロールプレイ
23	医療面接の実際⑧ — ロールプレイ 施術録の記載
24	医療面接の実際⑨ — ロールプレイ 施術録の記載
25	医療面接の実際⑩ — ロールプレイ 療養費の請求方法
26	医療面接の実際⑪ — ロールプレイ 療養費の請求方法
27	医療面接の実際⑫ — ロールプレイ
28	医療面接の実際⑬ — ロールプレイ
29	医療面接の実際⑭ — ロールプレイ
30	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅺ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

各損傷の応急手当の手順を、実技実習において学ぶ。
担当教員の実務経験を活かし、臨床力の基礎となる処置法を実践していく。

2 到達目標

各損傷の評価法を通して、実際の施術はもとより、合併症なども視野に入れた応急手当の方法を体得すことを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを中心に実施し、必要に応じて資料を配布する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各外傷の発生機序や臨床症状をしっかりと頭に入れた状態で、実技に臨んでもらいたいので、予習を重点に自己学習を欠かさないでもらいたい。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・理解の足りない個所があれば、いつでも質問するように心がけてください。
- ・実習着は常に清潔を心がけてください。爪は短くし、装飾品（指輪・ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。
- ・実際の臨床現場で実践できるように、しっかり学びましょう。

9 教員氏名（ 本田 光太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅺ ）

回数	授業内容
1	頭部，顔面部の損傷
2	頸部の損傷
3	胸・背部の損傷
4	腰部の損傷
5	鎖骨部の損傷
6	肩関節部の損傷①
7	肩関節部の損傷②
8	上腕部の損傷
9	肘関節部の損傷
10	前腕部の損傷①
11	前腕部の損傷②
12	手関節部の損傷
13	手・指部の損傷①
14	手・指部の損傷②
15	試験解説、前期復習
16	骨盤部の損傷
17	股関節部の損傷
18	大腿部の損傷
19	膝関節部の損傷①
20	膝関節部の損傷②
21	下腿部の損傷
22	足関節部の損傷
23	足・足趾部の損傷
24	上肢骨折の復習①
25	上肢骨折の復習②
26	下肢骨折の復習①
27	下肢骨折の復習②
28	上肢脱臼の復習①
29	上肢脱臼の復習②
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所他）において、実務経験のある実習指導者から、臨床体験で得た症例の知識をもとに、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感について知る。
- ・施術および施術所の運営（予約システム、受付、会計、スタッフとのコミュニケーション等）について知る。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動の取り方。
- ・実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学するための基礎知識を学ぶ。一連の業務内容を理解するための基本的姿勢について知る。
- ・臨床実習は異なる施設で実施されるため、施設への往来についての留意点を整理し、臨床実習施設に関する情報を得るための手段を知る。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材、教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後、就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。
- ・時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。
- ・「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

9 教員氏名（ 担当教員：久野 貴史 他専任教員 実習調整者：中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復施術所での施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり、臨床実習指導者が現地で担当する。

臨床実習指導者は、「柔道整復師専科教員」の有資格者、または、「臨床実習指導者講習会」受講修了者に限る。

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

回数	
	2月～3月の間で，5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床実習施設において、実務経験 5 年以上の臨床実習指導者の指導のもと、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目指す。
- ・施術および施術所の運営（予約システム、受付、会計、スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、決められた開始時間の 20 分前には施設に到着し、10 分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録、レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材、教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編第 7 版」

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後、就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。
- ・時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。無断欠席や遅刻は評価に影響します。

9 教員氏名（ 担当教員：本田 光太郎 実習調整者：中野 仁 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復施術所での施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり、臨床実習指導者が現地で担当する。

臨床実習指導者は、「柔道整復師専科教員」の有資格者、または、「臨床実習指導者講習会」受講修了者に限る。

1 1 科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

回数	
	8月～9月の間で，5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床実習施設において、実務経験 5 年以上の臨床実習指導者の指導のもと、見学実習を主体に、一部参加型とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目指す。
- ・施術および施術所の運営（予約システム、受付、会計、スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、決められた開始時間の 20 分前には施設に到着し、10 分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録、レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材、教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編第 7 版」南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後、就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。
- ・時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。無断欠席や遅刻は評価に影響します。

9 教員氏名（ 担当教員：本田 光太郎 実習調整者：中野 仁 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復施術所での施術者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり、臨床実習指導者が現地で担当する。

臨床実習指導者は、「柔道整復師専科教員」の有資格者、または、「臨床実習指導者講習会」受講修了者に限る。

1 1 科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

回数	
	2月～3月の間で，5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

臨床実習施設において、見学実習（一部参加型）を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。
- ・施術および施術所の運営など、一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、決められた開始時間の20分前には施設に到着し、10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録、レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材、教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後、就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。
- ・時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。

9 教員氏名（ 担当教員：川嶋 奈々美 実習調整者：中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復施術所での施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり、臨床実習指導者が現地で担当する。
臨床実習指導者は、「柔道整復師専科教員」の有資格者、または、「臨床実習指導者講習会」受講修了者に限る。

1 1 科目名 (臨床実習Ⅳ)

回数	
	8月、9月中の期間で、5日～7日間（45時間）の臨床実習を行う。